

街道再発見塾





塾長 岩永 忠康

■ 塾長コメント ■

長崎の魅力を発見するためには、自分の足で確認・体験できる長崎・浦上街道を散策することにあると思います。街道再発見塾を提案し、採択されました。

ところが、塾を組織し運営していくためには①活動を行うための組織としての塾生の数、②組織づくりと運営・活動、③公的予算の利用と配分、という課題に直面しました。

このうち、①は副塾長の尽力と一般公募によって 20 人ほど集まり開所式を迎えられました。②、③は、1 回目に長崎街道を散策したうえで今後の方向を考え、進めて行くことにしました。

実際に長崎街道を散策したことで、多くの資源や史蹟を確認しつつ新しい発見や街道の魅力をみんなで共有できました。楽しみの散策を重ねるうちに方向性が見えてきました。

塾の活動は、月 1 回の会議と街道散策です。会議は仕事の都合を考慮して水曜日の夜 2 時間程度、散策は土曜日の午後 1 時から 3~4 時間程度のスケジュールで実施してきました。そのほかに長崎街道についての 2 回の研修会と視察研修 1 回も実施することができて、有意義で興味深い研修会・視察研修が思い出に残りました。

散策は副塾長ないし長島氏の誘導のもとで毎回 10 人程度のグループで散策しました。

特に街道沿線に存在する神社・教会・寺院、地藏・恵比寿像、祠・お堂の霊場、句碑をはじめ自然景観などを見ながら写真を撮り、時には饅頭を食して、まさに「歩く」「見る」「食べる」を共有しながらの散策でした。さらに歴史資源を確認しつつ新しい発見や街道の魅力を体験できる時間になりました。

10 月になって報告書・成果物の作成並びに伝習所まつりに向けて執筆や準備作業に取り掛かりながら、会議・散策を進めました。

塾生の多くは散策することに高い関心をもつものの、執筆には諸事情や苦手意識もあって消極的になり、少ない執筆で原稿の作成に取り掛かりました。その過程で早崎氏による丁寧なアドバイスや校正によって成果物が完成しました。また伝習所まつりに向けては、長島氏や塩塚氏の案による「双六」「紙芝居」を作成し、これらを中心として長崎・浦上街道に関する説明・写真などを全員協力して作り上げました。さらに街道散策や伝習所まつりの準備を通して、若田さんをはじめ女性の皆様の積極的な参加と援助によって、塾活動が和やかなものになりました。

ともあれ、塾長として人・組織をまとめ運営していくことの難しさを体験しつつ、街道沿線にある多くの資源・史蹟を見ながらその魅力を発見できたこと、また塾生諸氏と楽しい散策を共有できたことは意義深い思い出になりました。今後は、この機会を活用して塾生諸氏と共に新たな散策が続けられることを願っています。

■ 塾の目的 ■

塾の目的としては、①街道散策を通して街道沿線に存在する資源を調査・整理したもの

を市民に発信すること。②街道散策や文献研究を通して塾生のメンバー自身が街道に存在する各種資源を確認・体験・享受すること。③散策によって街道沿線の人々や団体と人的交流を深めながら地域社会の活性化に貢献することの3点にポイントをおきました。

この散策で得たことは、長崎街道・浦上街道を数回に分けて調査し、街道沿線に存在する史蹟や資源を確認・再発見したことです。そして、これらを整理し、街道の魅力を SNS や出版物で広く市民に発信したことでした。

また、塾生メンバーが街道を散策し体験することで街道の魅力を再発見し、今後の豊かな生活づくりに役立てるとともに、長崎・浦上街道のファンになって、さらにはその魅力を口コミなどで広げていくことも狙いの一つです。

■ 塾の研究・活動内容 ■

塾は月に1回の会議と街道散策を基本的な活動として実施してきました。この街道散策や街道の知識を豊かにするために長崎街道に造詣が深い専門家の講演による2回の研修会、さらに長崎街道に関わる小城市の村岡総本舗（羊羹）の見学、北九州市の小倉常盤橋周辺の散策、飯塚市の内野宿についてのバスによる視察研修を実施しました。そのほか伝習所まつりに向けて長崎街道に関わる双六や紙芝居の、実演のための準備や作業を行いました。

街道再発見塾の活動内容は、長崎街道を5回、浦上街道を2回、長崎市内を1回に分け、それぞれ3~4時間程度の散策を実施しました。具体的には、散策実施に向けて街道の勉強会や関連文献を参考にしながら、街道歩きの経験を持った塾生の案内のもとで、散策し

ながら街道沿線に存在する資源（神社教会寺院や地蔵・恵比寿像や祠・お堂の霊場、句碑など）を確認しながら写真を撮り、時には饅頭を食して、まさに「歩く」「見る」「食べる」を共有しながらの歩きでした。資源・史蹟を確認しつつ、新しい発見や街道の魅力を体験しました。

■ 塾活動の成果 ■

塾の目的である長崎街道・浦上街道の散策を通して街道沿線に存在する資源を調査・整理した成果物を公刊できたことが何よりの成果です。具体的には長崎街道に存在した「関所・番所」「教会・お寺・神社」、シュガーロードに関わる「食文化」を反映したお菓子、長崎・浦上街道紀行などを記載することによって、長崎・浦上街道の魅力を発信することです。

次に塾生メンバーが街道に存在する各種の資源を確認・体験・享受しながら歴史資源の新しい発見や街道の魅力を体験できた喜びです。今後の文化・生活を豊かにするとともに長崎街道の魅力を他の人に伝えながら仲間を増やすことができればと思っています。

さらにバス視察研修では、内野宿での対応や街道に対する取り組みが勉強になり、同時に地域づくりや街おこしのモデルとしても体験できたことです。

これらの総合的な成果を通して平面的な目標が立体化し、満足感を得た塾生の喜びの笑顔が印象的でした。

街道再発見塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 30 年		
5 月 23 日(水)	長崎歴史文化博物館	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
6 月 6 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 2 回 塾会議 第 1 回街道散策の説明、今後の活動行事の説明
6 月 9 日(土)	長崎街道散策	第 1 回 街道散策 諏訪神社から日見峠トンネル口までの散策
6 月 27 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 3 回 塾会議 第 2 回街道散策説明、第 1 回散策の反省、今後予定
7 月 28 日(土)	浦上街道散策	第 2 回 街道散策 西坂：26 聖人記念館広場から長崎大学まで散策
8 月 29 日(水)	長崎市民会館	第 1 回 研修会 講 師（久田松和則：大村市富松神社宮司） テーマ「長崎街道往来模様—象も通る、噂話・病も走る、漂着民の帰る道—」
9 月 5 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 4 回 塾会議 第 3 回散策の説明、10 月研修会、今後の活動行事等
9 月 8 日(土)	長崎街道散策	第 3 回 街道散策 矢上番所橋から古賀までの散策
9 月 18 日(火)	市民活動センター (ランタナ)	臨時会議 成果物（報告書）・伝習所まつりの検討 成果物作成に向けてワーキンググループ立ち上げ
10 月 3 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 5 回 塾会議 次回散策の説明、成果物・研修視察に向けての説明等
10 月 27 日(土)	長崎街道 長崎市（駅前）→小城市→、 北九州市→飯塚市→長崎市	第 1 回 長崎街道視察研修会 ①小城市（羊羹：村岡総本舗）の視察 ②北九州市小倉常盤橋（始発・終着）周辺散策 ③飯塚市（内野宿）の視察・散策
10 月 31 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 6 回 塾会議 次回散策の説明、成果物の打ち合わせ等
11 月 10 日(土)	長崎街道散策	第 4 回 街道散策 古賀から久山までの散策
11 月 14 日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第 2 回 研修会 ①「長崎街道今昔/幕末編」（本馬貞夫氏） ②「長崎街道今昔/近代編」（山口保彦氏）

日 時	場 所	内 容
11月28日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第7回 塾会議 次回散策の説明、成果物・伝習所まつりの検討、今後の行事予定
12月8日(土)	浦上・時津街道散策	第6回 街道散策 長崎大学から時津港までの散策
12月19日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第8回 塾会議 次回散策予定、成果物、伝習所まつり、来年度塾等の検討
平成31年		
1月9日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第9回 塾会議 次回散策の説明、成果物・伝習所まつりの準備等
1月19日(土)	長崎市内	第7回 街道散策 歴史文化博物館前→西坂・聖フィリッポ教会→眼鏡橋
2月7日(木)	市民活動センター (ランタナ)	第10回 塾会議 次回散策説明、伝習所まつり、今後の予定等
2月23日(土)	長崎街道	第8回 街道散策 久山バス停前から諫早までの散策
2月24日(日)	長崎市民会館	臨時集合 伝習所まつりに向けての準備作業
3月6日(水)	市民活動センター (ランタナ)	第11回 塾会議 成果物・伝習所まつりに向けての準備・整理、今後の塾の在り方
3月13日(水)	市民活動センター (ランタナ)	臨時集合 伝習所まつりに向けての最終準備作業
3月21日(木・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、双六・紙芝居の実施

塾活動の成果は、街道散策を通して街道沿線に存在する自然景観・歴史的建物・史蹟等の資源を調査・整理したことです。また長崎街道については2回の研修会と1回のバス視察研修を通して街道の魅力や役割を確認することができました。

1 街道散策紀行

(1)長崎街道

長崎街道は鎖国政策の下で幕府が外国との交易を行う港である長崎に通じる街道として非常に重視されました。九州の諸大名の参勤交代や長崎警備、長崎奉行や西国筋郡代の交代、さらにオランダ人・中国人の江戸参府や交易・献上品の運搬にも用いられました。

以下、長崎街道を諏訪神社鳥居前から諫早・久山まで4回に分けて散策した時の史蹟・資源や特徴を紹介します。

①長崎街道（諏訪神社鳥居前一日見峠西口トンネルバス停）は、長崎の最初の古い町と街道の始発点のコースです。

このコースにはシーボルト通りを中心として長崎開港時の領主・長崎甚左衛門の居館があった春徳寺周辺一帯に教会跡・お寺・橋など多くの史蹟がみられ、長崎を旅立つ人を見送る惜別の地である桜馬場天満宮や蛍茶屋跡があります。また本河内貯水池付近には俳人の句碑や犠牲者を祀った無縁塔・供養塔、さらに地藏様や給水所（御手水）などが存在します。



桜馬場天満宮



蛍茶屋跡

②長崎街道（日見トンネル西口：芒塚バス停一東長崎地域センター）は、長崎街道一番の難所で「西の箱根」と称された日見峠と、中継地の日見宿のコースです。

このコースの日見峠には、新茶屋之跡、地震石神社、日見峠関所跡、馬頭観音、向井去来の句碑があり、また長崎街道・明治新道・日見トンネル・新日見トンネル・長崎自動車道が交差している場所でもあります。



新茶屋之跡



馬頭観音

また、日見から矢上までの長崎街道には、「歯痛観音」をはじめ祠・鳥居などの霊場や石碑などの史蹟が点在し、また日見継ぎ場跡や日見宿跡など長崎街道の中継基地の役割を担っていた跡を垣間見ることができます。

さらに矢上（宿）までには、「腹切坂」の三基石碑、饅頭屋「日見峠まんじゅう本舗」、天領の日見領と佐嘉領の領境石標、普賢饅頭屋、矢上番所跡などがあります。



領境石標

③長崎街道（矢上番所橋—古賀）は、長崎に入る前の矢上宿と古賀地域のコースです。

このコースは長崎街道の要所でもあったため、諫早領主の役屋敷、矢上八幡神社、矢上神社（馬頭観音、珍しい狛犬等の史蹟）、教宗寺（オランダ商館長やシーボルト、象と象使いも泊まった）、恵比寿像など多くの歴史的遺構や史蹟が見られます。



珍しい狛犬

次に矢上から古賀までは、八郎川を渡り街道（明治新道）沿いに役行者神社や楠川の渡しの標識、領境石標「従是南佐嘉領」の石碑・台座石が見られます。

この付近の古賀地区は、キリスト教の信仰が盛んでしたが、江戸幕府の禁教令によって弾圧されました。それとともに昔から植木の産地として有名で植木がある家屋や畑が点在し、里山の景色が残っています。この地区ある福瑞寺にはキリシタン墓碑・梵鐘・標識塔が見られます。



役行者神社



福瑞寺

④長崎街道（古賀—久山）は、古賀の平坦な田舎道と井樋ノ尾峠を挟んだ起伏の多い山道のコースです。

このコースには、「古賀の藤棚」と呼ばれる休憩所兼古賀人形の制作所と国指定重要文化財の旧本田家住宅があります。

次に九州自然遊歩道にもなっている起伏のある山道には「なすび塚」、井樋ノ尾観世音、長崎街道御籠立場の石碑、石の祠と水がめがある清水神宮、「郡境 彼杵郡喜々津・高来郡久山」の石碑や「旧長崎街道味の茶屋跡」の碑、大乘妙典六十六部塔の看板（諫早史談会）、数体の地蔵が安置された祠、久山茶屋跡、長崎奉行・大名から商人・学者・維新の志士などが喉を潤したといわれる「茶屋の井戸」が存在しています。

また、長崎街道の宿場の絵が描かれている「たぬき絵巻」もあり、興味がひかれます。



旧本田家住宅



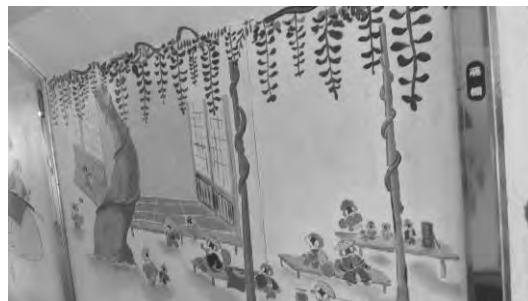
清水神宮



茶屋の井戸



なすび塚



たぬき絵巻

(2) 浦上・時津街道

浦上・時津街道は、西坂で処刑された日本 26 聖人が歩いた街道であり、近代では原子爆弾の投下で影響を受けた、いわば負の遺産が残っている街道でもあります。

以下は、浦上・時津街道を 2 回に分けて散策した時の史蹟・資源や特徴をあげてみます。

①浦上・時津街道（西坂―長崎大学）は、キリスト教関連と原爆関連の史蹟が存在するコースです。

このコースには、「長崎浦上街道はここに始まる」の標柱を挟んで日本 26 聖人殉教地（記念碑）と聖フィリッポ教会があり、少し進んだ所には、西坂地藏堂、島原の乱で殺されたキリシタン 3000 人の首を埋めた「首塚の跡」、長崎四国第五十八番霊場、供養塔、岡まさはる記念館（長崎平和資料館）、岩屈のそばに立つ回国供養塔、銭座天満神社などの建造物・史蹟が点在しています。



西坂地藏堂



山王神社の大楠

また、このコースには、山王神社とその境内の市指定天然記念物の大楠や原爆で片方を倒された鳥居、長崎大学医学部の構内には稚桜神社（祭神神功皇后）や山上憶良の万葉歌碑、浦上天主堂が建っています。

さらに山里小学校近辺には帳方屋敷（永井博士が病臥していた如己堂の場所）、聖フランシスコ・ザベリオ秘密教会跡、殉教者の聖地

ベアトス様の碑、本大橋の対岸にはサンタ・クララ教会跡などキリシタン関係を中心として多くの史蹟が存在しています。

②浦上・時津街道（長崎大学正門～時津港）は、海路を利用した長崎街道の 1 つのコースです。

このコースの浦上地域には、山里村（天領）と浦上北村（大村藩領）との境で「番所」が置かれていた「城越（じょうのこし）」があります。

また住吉神社、老舗「饅頭屋」、「六地藏」、岩屋口の「岩屋神社の鳥居」、「横道式見越追分」、「平宗村庄屋敷跡」があります。国道の打坂峠は、昔は時津街道一番の難所といわれた峠だったそうです。



住吉神社



岩屋神社の鳥居

さらに時津には「さばくさらかし岩」をはじめ、三軒の饅頭屋、大村藩の直営の本陣としての役割を備えた宿場である「時津の茶屋」、船を留め置くために綱を結わえる石としての「ともづな石」があります。さらに現在の船の発着場横に、大きな石碑「26 聖人上陸の地記念碑」「恵比寿像」が建っています。



さばくさらかし岩



26 聖人上陸記念碑

2 街道と菓子文化

長崎街道は、「シュガーロード」と称されるように食文化・菓子文化に関わる砂糖と密接に関係しています。

長崎貿易では、外国船の安定を図るためのバラストとして当初、石灰が使われることもありましたが、その後、砂糖も用いられるようになり、砂糖は貴重な輸入品として、長崎街道周辺地の食文化・菓子文化に多大の影響を与えました。

18世紀に入ると、役人に対する贈り物や丸山の遊女の貰い物、さらにはオランダ船や唐船の荷役にあたる日雇人夫に対する手当てとしての名目で、大量の砂糖が長崎市中に流れ込みました。

砂糖をベースとした菓子の代表が長崎のカステラです。日本ではじめて「カステラ」を焼いたのはルイス・デ・アルメイダで、長崎での最初のキリスト教を布教しながら、医師として病人の滋養食のために焼いたといわれています。また、最初の日本人は長崎代官村山等安といわれ、秀吉謁見の際にカステラと南蛮料理を秀吉に献上しています。さらに等安は宣教師のジョアン・ロドリゲスとともに、徳川家康に謁見したときもカステラを献上しています。

砂糖は佐賀県の菓子文化にも大きな影響を与えました。その中に、佐賀県小城の羊羹があります。村岡総本舗副社長の話によれば、原料となる砂糖を中心に小豆・インゲン豆・良質の水をベースとして製造法の技術革新や砂糖・菓子文化を育む環境が羊羹の発展を支えたということでした。

長崎は西洋菓子や唐菓子の伝来地です。そのなかで日本中にひろまったのが、西洋菓子ではカステラをはじめパン・ボウロ・ビスケ

ット・コンペイトウなどがあり、唐菓子では月餅・口砂香・一口香があります。これらの菓子がいったん長崎に伝えられると、それはやがて長崎の銘菓となって定着し、全国的に普及していきました。

また日本の食文化・菓子文化の担い手として「饅頭」があります。街道沿いには必ず饅頭屋を見かけます。疲れた時の甘くおいしい饅頭、寒い時の暖かい饅頭は、旅人の栄養を補給し、旅の疲れを癒したのではないかと思います。

長崎街道では、シーボルト通り商店街界限には数件の饅頭屋があります。また、浦上街道の宿で船着き場がある時津には、国道沿いに川林まんじゅう、中村饅頭など創業から110数年を経ている「時津まんじゅう」の店があります。時津のお土産といえば「時津まんじゅう」と言われるほど長崎の人は誰もが知っている名物まんじゅうです。饅頭に関しては、長崎街道を通った象も饅頭を食べて元気を取り戻したという逸話があり、砂糖との関係で別の小冊子にも書いています。

このように長崎街道は、海外から輸入された砂糖をベースとして、食文化・菓子文化が伝わり、街道沿線には小城の羊羹をはじめ各地で食文化・菓子文化が普及していきました。

3 長崎街道の研修視察と研修会

(1) 研修視察

バスを利用した長崎街道の研修視察として、①長崎街道の沿線に存在する佐賀県小城市の村岡総本舗（羊羹）の視察、②長崎街道の始発（終着）といわれている北九州市小倉北区にある常盤橋周辺の散策、③長崎街道の1つの宿場である「内野宿」の保存会役員の案内による散策と視察を紹介します。

①村岡総本舗では、村岡副社長による羊羹記念館の施設・展示物の見学やビデオによる羊羹の製造方法などの説明を受けました。

②常盤橋周辺では、常盤橋を視察・確認したのち長崎街道沿線や小倉城周辺を散策しました。



常盤橋での写真撮影

③内野宿では、保存会役員の丁寧な案内によって、内野宿の成り立ちや役割などの説明を受けました。そのうえで歴史を感じさせる公孫樹・榎・桜の大木の自然景観、御茶屋跡（本陣）・代官所跡、恵比寿像や福部神社の地蔵様などの史蹟の視察と案内を受け、さらに商家の内野長崎屋の見学や旧肥前屋にある案内所で内野宿の紹介のビデオを見ながら説明を受けました。

とにかく町民全員が協議会のメンバーになって内野宿を保存・維持しながら地域おこしを実践されていることに感銘を受けました。



内野長崎屋

(2) 研修会

第1回研修会（8月29日(水):長崎市民会館）では、講師（久田松和則：大村市富松神社宮司）による「長崎街道往来模様～象も通る、噂話・病も走る、漂着民の帰る道～」というテーマで長崎街道を往来する人・物・情報・病気について、具体的な事例をあげて説明して頂きました。



研修会

第2回 研修会（11月14日(水):市民活動センター・ランタナ）では、2人の講師による長崎街道に関わる人物や街道についての講演でした。①「長崎街道今昔/幕末編」（本馬貞夫氏）では、長崎街道を往来した人物の特徴や往来模様の話、②「長崎街道今昔/近代編」（山口康彦氏）では、日見トンネルに関わる話をして頂きました。

4 街道の役割と特徴

現代の道路が自動車等を利用して移動するために広く整備されている道であるのに対して、街道は昔からの街並み・自然・社会インフラ等の一部が残存し、人が徒歩で移動ながらそれらを肌で感じられる道であります。したがって、日本の原風景の一部が残存し、昔の日本社会や生活の一端を体験できます。

街道とは、街や集落をつなぐ交通路・道路のことです。街や集落は人が経済・社会活動をしながら生活するところで、街を結び付ける街道には人・物・情報等が行き来し交流する場でもあります。

街道沿線にある街・集落・周辺には、①霊場施設としての神社・寺院・教会をはじめ道祖神、地蔵、恵比寿像等、②自然・人的災害に対する供養塔をはじめ歴史的出来事への記念碑・石碑、有名人などの句碑等の塔・標記物、領境を示す石柱、③通行人をチェックするための関所・番所、④宿泊する本陣・脇本陣、宿場、⑤人馬等が給水する給水場所、⑦飲食する饅頭屋をはじめお菓子屋、茶屋、⑧街道に架かる社会的インフラとしての橋などが点在しています。

日本の街道の特徴としては、日本の社会の物質的・精神的な基盤になっている宗教施設としての神社・お寺・教会の役割と存在があります。これらの施設は為政者・行政による上から人々の生活を支えるものでした。例えば、昔、お寺は日本特有の檀家制度によって民衆を管理する役所の役割を担っていました。お上（行政）はキリスト教禁制の名目で人別帳（戸籍・租税台帳）による民衆管理を行い、民衆は冠婚葬祭をはじめ説教や寺小屋など教育の一端を担うなど社会インフラとして社会生活の基盤になっていました。

他方、日本は神道・仏教など多神教で、日本固有の民族宗教である神道も、自然の力や靈魂を崇拝する信仰があり、「おそれ・かしこむもの」すべてを神と呼びました。

神々には、自然神・英雄神・先祖神・観念神をはじめ民間神道（生活密着型の田の神様・恵比寿様）や災害や迫害などによる死者を祀る供養塔までも関係し合い、相互扶助的な安心感を主とする信仰が育まれてきた、いわば下（民衆）からの社会生活の基盤になっています。

このように、神社・お寺・教会などは宗教活動に基づいて人々の生活に密着したもので

私的な冠婚葬祭をはじめ公共のイベント（夏祭り・秋祭りなど）を通して地域の社会的行事の実施、また教育的なものとして昔は寺子屋さらに社会福祉関連として一時的な宿泊や災害時の避難場所など幅ひろい役割を担ってきました。

今回、街道を散策して体験したことは、街道沿線には、必ずその日本の人々が信仰している神社・寺院・祠・お堂のほか、供養塔、地蔵像・恵比寿像が街・港・山村を問わずあらゆる場所に点在し、これらが合わさって日本の原風景を形成していることを実感できました。

5 提言

(1) 街道散策の多様化

街道を散策する場合は幅広いテーマから狭い専門的テーマで散策することができます。

①テーマには歩く、見る、食するなど人の行動を中心に幅広く散策する。②資源に的を絞って散策する。例えば、神社、お寺、教会などの社会施設を中心に散策する。あるいは歴史的遺跡を中心に散策する。さらに食べ物を中心に散策する。また健康のために散策するなどの多様な散策が考えられます。

したがって、それぞれの目的によって時間・距離の配分を考慮して有意義な散策ができると思われます。

(2) 街道のメンテナンス

街道はもちろん街道沿線の資源（神社・お寺・教会史蹟）や標識・掲示板などメンテナンス（維持管理）が必要なことを痛感しました。これらの資源が生活に密着している場合には維持管理がなされていますが、今回散策した街道の一部には維持管理が十分でなく、

特に標識・掲示板等の説明に分からないことが多々ありました。これら標識・掲示板の表示・説明が分かるように工夫・維持管理することが楽しく有意義な散策に役立つと思われます。

(3) 街道散策の宣伝・促進

街道には日本の素晴らしい資源が存在しています。国内外の人が街道散策の機会を得られる宣伝活動を実施していくことが必要です。

例えば、定期的（月 1 回）に行政・NPO 等の主導の下で、街道散策を実施するなどして街道散策の楽しみ・意義を体験することで多くのファンを作り、それがまた街道の魅力を他の人々に伝え仲間を増やす「草の根」運動に繋がるものと思われます。

6 街道散策の効果

街道再発見塾の散策・視察を終えた感想としては、塾への参加理由は皆まちまちで、「何か得るものでもあれば」「友人に誘われたから」などの期待をもち塾生になった人も少なくなかったようです。

ところが参加し、散策活動に加わったり研修会に参加するうちに、塾活動の成果は多様性に満ちた価値の高いものへと深化していったのです。

その 1 番は「塾生仲間との交流をとおしてコミュニケーションによる意識の向上」「散策活動による健康づくり」「歴史文化の新しい発見と感動」などの理由から積極的な学習意欲につながったものと思われます。

2 番目は「長崎街道」という響きが歴史文化の香りを醸成して、関心を高めてくれたことです。そのために得た資料には、当塾がまとめた小冊子にもありますように、饅頭の大

好きな「象」や「ラクダ」「ダチョウ」が日見峠を歩いて江戸へ上ったという興味深いできごとや、「さばくさらかし岩」のユーモラスな言い伝えも、知識の一頁に加えたいことです。

3 番目は、長崎街道に直結した学習のみに限定せず、その延長線にある別称「シュガーロード」から派生した砂糖の影響に眼を向けた「饅頭」「羊羹」「カステラ」などユニークな視点に喜びを加えることができたことでしょう。

これはまた、寺院や神社、教会という宗教を背景に、時の変遷に翻弄された特有の姿を、また「参勤交代」「伊勢参り」と「本陣」や「関所・番所」のリアルな捉え方によって、貴重な資料に触れることができたことです。これらは正に“再発見塾”の厚みに最たる成果として納得することができましよう。

今回の再発見の主旨に合致した学習の成果に満足しながらも、一方では時間不足を覚えながらの 1 年でした。

今後に残された未発見の資源発掘は、次回への新たな課題として、当塾のみなで“再々発見”に取り組めるよう願っています。

■ 塾生の感想 ■

この塾には、街道散策に興味があり参加しました。歩いてみると、車で通る幹線道路から入ったところに史跡があり、旧街道の趣を数多く残していました。矢上から古賀までを歩いた時は雨でした。昔の旅人はどんな気持ちでこの雨の街道を歩いたのか想像すると、タイムスリップした自分を感じました。象さんもこの道を通ったそうで、1泊したお寺がありました。古賀の近くでお饅頭屋さんがありました。立ち寄って食べた饅頭がとても美味しくて疲れも取れ、時代劇の茶店で出されるお茶と団子の効果を実感しました。長崎街道25宿場それぞれに歴史研究や町おこしをされている方々が数多く本当に感心しました。

(大久保房信)

街道を歩いてみて、昔の人がここを歩いたのだなあという感激はありましたが、はたして再発見と言える発見ができるのだろうかと不安がありました。しかし、6回くらい散策しましたところから変わってきました。暑い夏の浦上街道、雨の日の矢上、秋の芒塚、冬の時津街道…と、四季折々に景色を楽しみ、花々や木々の美しさに癒されました。

(大塚広子)

前半は職場の関係で休みが多かったのですが、後半は夫婦で参加しました。街道には案内板もありましたが、やはり、詳しい人がいるので安心でした。江戸時代の旅人に思いをはせながら歩くことができました。

(堤田 稔)

今回の街道再発見塾に参加し、富松神社宮司久田松氏、本間貞夫・山口康彦両先生の貴

重な話をお聴きすることができたこと、また、様々な資料を用いた塾会議における勉強会により、長崎街道が果たしたこと等が少し分かった気がします。バス研修では村岡総本舗での羊羹に関する話や貴重な展示物、内野宿では展示館の方々の案内や丁寧な説明を受け大変有意義な1日をすごすことができました。今後、長崎街道(長崎～小倉間)を数年かけ歩いてみたいと思っています。

(中嶋熊男)

歩いて旅するとその土地の風土や地理を少なからず体感できます。昔の街道を辿ると処々に地蔵や塚など当時のなごりが有ります。

塾では道が分かりやすく間違いなく迎れるようになっているか、歩車分離など歩行者に優しく歩きやすくなっているかを探ることが私の課題でした。道は手入れをしないと寂れていきます。多くの方々が生活や散策の道として利用度を上げることで分かりやすく、歩きやすく整備されるものと思います。成果物の高低差図と街道ルート図はこれから歩く方の参考に作図しました。

(長島豊明)

塾のバス視察で飯塚市の「内野宿」に寄りました。江戸時代の建物を大切に保存して、その1棟を展示館として一般に開放されていました。森山栄之助の立姿の写真と説明文に気付いたのは見学終了時間寸前でした。説明文を読めないまま帰路についたのがとても残念。幕末に通詞として欧米諸国との通商条約締結という大きな役割を果たした森山が死後150年、いま石碑が本蓮寺の墓地の片隅に石ころの様に放置されているのが不思議です。

(若田志保子)

ほぼ1年間の塾活動で特に印象に残ることは、福岡県・飯塚市の内野宿への訪問です。・・街道の当時の雰囲気はまだ残ると聞いていた内野宿を約1時間半散策する機会を得ました。

現地へ到着し降車した所で待っていてくれたのが内野宿の案内グループの方々でした。私たち10名余りに対し、5・6名の方々からほぼ付きっきりで大変丁寧な案内をして戴き、新たな興味深い話も伺うことができました。このグループの方々へ会いに、また行ってみたいと思わせるような歓待に感動しました。
(野田 茂)

街道再発見塾に何も考えることなく入りましたが、一日目にして私は魅せられてしまいました。街道にはカトリックと関わりのあるところばかり、私はカトリック信徒として内側からみておりました。外側からみることがなかったので、知ることがとても新鮮で興味深いものでしたし、街道歩きでは知らないことがあり、また真夏時の歩きは大変でしたけれど、楽しい思い出となっています。いろんな分野で働いてこられた方とのお話は楽しく、とても勉強になりました。

(橋本昭美)

時・所を問わず、歴史の探訪は未知解明への期待感を膨らませてくれるものですが、学習前にいろいろと思案しているうちに、どこか楽しくなってくるのは私だけでしょうか。特に江戸時代は、我が国特有の文化や人間模様が確立してきた時代であり、併せて長崎街道というロマン的な語音に期待してこの再発見塾に参加しました。案に違わず、良き仲間にもまれての散策と会話は回数を重ねるごとに探訪心を募らせ、やがてそれは心身の健康

へも好影響を与えてくれるものになりました。何回目かの散策時、2万歩以上をクリアして快い疲労感を味わいつつ得た散策は、当夜の夕食の美味、快眠、翌朝の爽快感を豊かにして街道歴史文化の好印象を提供してくれたのです。専門家による史実の講話、研修散策から得た情報や感動、仲間との和やかな意見交換など、これらの和合が未知の部分を豊かに満たしてくれました。この喜びは何ものにも代えがたい糧として大切に活用するつもりです。
(早崎正城)

いろいろな事を学び再発見できた楽しい塾でした。佐賀の村岡総本舗では街道あつての菓子文化の発展があったことを、福岡の内野宿では街道宿を保存し文化を伝えていく地域の方々の情熱を学びました。そして、街道は、現在の交通の要所と交わるところも多く、国道を少し入ると昔の面影が残る街道へと一変し、安らぎをあたえてくれます。また、街道を歩くことで、歴史の街長崎に興味があわき、長崎市主催の「ながさき歴史の学校」の「わかる！コース」と「近代化遺産コース」を受講し、長崎が江戸時代から明治にかけ日本に大きな影響を与え、同時に、長崎が大きく発展した要因を学ぶことができました。街道散策で自然を楽しみながらの健康づくりができましたが、それに加え、岩永塾長、早崎さん、長島さん、それぞれ秀でたものを持たれている方々と知り合えたこと、また、いくつになっても挑戦を忘れないことの大切さを若田さんから学び、さらに、山里中学校、長崎北高の同窓生からは同じ街道と一緒に歩ける喜びを味わうことができた楽しく刺激のある塾活動でした。
(副塾長：西村敬一)

街道再発見塾

塾長	岩永 忠康				
1	大草 一俊	21	吉松 恵美子	41	
2	大久保 房信	22	若田 志保子	42	
3	大塚 広子	23		43	
4	樫山 喜代子	24		44	
5	川崎 辰秋	25		45	
6	塩塚 徹	26		46	
7	下田 昌嗣	27		47	
8	堤田 稔	28		48	
9	中村 美弥子	29		49	
10	西村 敬一	30		50	
11	中嶋 熊男	31		51	
12	長島 豊明	32		52	
13	野田 茂	33		53	
14	橋本 昭美	34		54	
15	早崎 正城	35		55	
16	松田 一郎	36		56	
17	松尾 毅	37		57	
18	峰 清女	38		58	
19	森 泉	39		事務局員	商工振興課 長野 早紀
20	森内 世貴子	40			長崎学研究所 入江 清佳

